

## U06a 赤方偏移バイスペクトルの新しい定量化方と測定

杉山尚徳

近年、大規模銀河分光サーベイにより、銀河の相関関数を測定することで宇宙論パラメータを決定する試みが盛んに行われている。宇宙初期の揺らぎはガウシアン分布に従うことが知られており、その宇宙論的情報は二点相関関数によって記述される。しかし、銀河の分布はその進化の過程で重力相互作用によって強い非線形性を持つため、情報が多点相関関数に流れてしまう。そのため、銀河分布から完全に宇宙論情報を引き出すには、多点関数の解析が不可欠である。実際、この数年の間に、銀河の3点相関(バイスペクトル)の解析が盛んに行われ始めている。しかし、これまでの研究では、バイスペクトルを角度平均したモノポール成分のみが主に取り扱われており、赤方偏移歪みによる非等方成分についての解析はほとんどなされてこなかった。本研究では、バイスペクトルの赤方偏移歪みを定量化する手法を新たに提案し、実際に測定することで、将来観測における非等方バイスペクトル解析への道筋をつけた。